

各論 2 成人・高齢者のケア

岐阜大学眼科 川瀬 和秀

ロービジョンケアは、患者の視覚障害や疾患・病期などの状態、家庭や社会の環境、本人のやる気やニーズによって全て異なる。また、視覚障害者の原因疾患も年代によって異なり、全体では緑内障が1位であるが、60歳未満では網膜色素変性症が1位、60歳から75歳未満では糖尿病網膜症が1位で、75歳以上でやっと緑内障が1位となる。また、実際にはロービジョン外来では、黄斑変性症や高度近視による脈絡膜萎縮など様々な疾患の対応が必要となる。各論 2 成人・高齢者のケアでは疾患別にロービジョンケアの特徴を述べ対応について説明した。また、全ての疾患において必要となるロービジョンケアの進め方として、気付、導入、介入、繋ぎの各段階と地域の連携を上手く行うことが大切であり、その中心に眼科医と視能訓練士が存在することを強調した。